

## 信仰：神道

集落のノロが担った最大の責務の一つは、年に一度神々が集落を訪れるのを手助けし、豊穡祈願が行われる間神々を歓待することでした。奄美大島の集落の多くは山々を背にして海に面しています。集落を守る神々はその集落の近くにある神山（god mountain）上空の天界に住んでおり、豊穡の神々は海のはるか向こうにあるネリヤカナヤの地に住んでいると言われています。多くの集落には立神とよばれる付近にある岩、または小島があります。神はこの立神を道標として集落へ訪れます。もう一つ、島全域で見られるのは、それぞれの集落を横断する道、神道（かみみち、path of gods）です。神々はこの道を通して集落を訪れます。細い道や狭い路地をたどって神道を進んでいくと、ミヤーと呼ばれる集落の広場にたどり着きます。どんなに狭くても（肩幅より少し広い程度のこともあります）、神道は年中いつでも入念に掃き清められ、何も置かれていない状態に保たれています。

### 神々の訪問

祭りの日には、神々が海や山から神道を通して集落を訪れ、歓待を受けます。これは伝統的にノロの務めで、今でも地元の有力な女性たちが中心的な役割を担っており、集落の人々はそれをサポートします。ミヤーは多くの儀式が行われる重要な場所です。その儀式のひとつは老若の男たちの行列による参拝です。参拝後、彼らは各集落自慢の土俵で行われ、人々がとても楽しみにしている相撲大会に参加します。祭りの最後には、集落の人々は願わくは訪問を楽しみ満足した神々に別れを告げ、神々はそれぞれの住処へと帰っていきます。